

子育て同盟知事とママの子育てタウンミーティング質問・感想

日 時：平成26年5月28日（水）13:30～14:30

会 場：東京都虎ノ門 日本財団バウホール

出席者：子育て同盟 鈴木三重県知事、阿部長野県知事
子育てママ、子育て支援者 約60名

○会場での主な質問概要

参加者（女性）

- ・とても大切な奥様に「私と仕事とどちらをとるか」と聞かれたらなんとお答えになるか。

参加者（女性）

- ・企業サイドの取り組みを知事の方々ネットワークをもって応援している部分があるか。例で教えて欲しい。



参加者（男性）

- ・3歳と4歳の子どもを育てている。家内と一緒に子育てをしたいなという気持ちはあるが、分担の話になってしまって家事のお皿を洗うのとか、この間もクニニグ屋に行っで、激しい喧嘩になってしまって、どう分担するかではなく、子どもをどう未来へどう育てていくかという考え方が大事だと三重にはあってという話に感動した。

阿部知事

前向きな明るいものをしっかり発信することによって、これから社会を担う若者たち、あるいはこれから子どもを産もうとしている人たちに、前向きな明るいメッセージを出し続けていくことが必要だろうと思っている。



鈴木知事

希望が叶うということが大切。家族というものはいろいろな形があるので、なにかこういう形というのを押し付ける、価値観を押し付けるというのはよくないと思うのですが、一方で三重県でも、理想と現実の子ども数にギャップがあるんですね。押し付けてはいけないので、希望を持っている人の支援さえしないというのではなく、価値観を押し付けるのではなくて、子育ての支援をやっていこうと思っています。繰り返しになるが、家族を形成している一方の当事者である男性が子育ての全てのステージで当事者意識を持つということに特に力点を置いてやっていきたいと思っている。

参加者（女性）

国全体をみたときに子どもにお金が回らないという状況があると思います。消費税を上げたにも関わらず子どもに向けられているお金が微々たるものであるという状況がある。けど全て社会保障に回しているよというそというか宣伝がまかり通っている状況に憤りを覚えている。

どうしても次世代が大事である、ただ選挙権を持っているのが大人であり、高齢者が多いという状況の中で、世界的に見ても財政的な児童虐待なんて呼ばれていますが、子どもが後回しになってしまうシルバー民主主義の状況も構造的に難しいことはどうしようもないところはあと思うが

コーディネーター

子どもを育てるということは地域を育てる、地域を育てるということは国を育てることになるので、皆さんとともにこの国を育てていくために、子どもを育てていきたいという思いの両県知事を応援していただきたい。

○アンケートでの記載

（時間が1時間と限られていたため、発言できなかった方の意見等を記載）

◇感想

- ・（長野県、三重県の取り組み）とても素敵だと思いました。しかし、仕事があるので転居できません。都会で何ができるのでしょうか？
- ・若者支援をする現場スタッフが「若者でない」ことへの心理的不安について、若いママから意見が出たことがとても良かった。
- ・長野県知事がおっしゃるように、「出産」「育児」の前段階サポートなど包括的な支援が必要だと思います。
- ・（三重県知事の）“子育ては完璧でない”（という言葉）インパクトがありました。つつい求めてしまう中、改めて響きました。
- ・「イクメン」という言葉はキャッチーですが、育児は夫婦でするものという考え方が当たり前になればイクメンとわざわざ言わなくてもいいと思います。ですので、この言葉は好きではありません。

◇今、子育てに困っていること

- ・羨など相談できるコミュニティ
- ・保育料の補助がもう少しあると家計は助かります。
- ・日曜、祭日に遊ばせることができる施設
- ・ちょっとしたことを相談できるママ友がない。

◇あなたの理想の子育て環境とは

- ・家庭内だけでなく、ご近所も含め皆で子どもの成長を見守る環境
- ・母親中心でなく、両親、ときには、祖父母等家族のサポートを受けながらみんなで子育てをする。
- ・子が小学校入学までは、子が病気ときは、仕事をセーブできる環境であり、なるべき小さいうちは、一緒に過ごせる時間が確保できる周りの理解と協力のある社会
- ・親やご近所、保育園、自治体 皆で子どもを見守り、育んでいける環境。

